

# ■庁舎の建て替え・広場の整備事例

整備事例	カテゴリー (庁舎×○○)	庁舎建て替えの特徴	庁舎の機能				周辺環境			
			機能分散型	機能集約型	複合施設	その他	広場	公園	関連施設	
1	新潟県 長岡市	【機能】 行政機能分散	・市役所本庁機能を中心市街地活性化のために集約し、 <b>関連施設と一体整備</b> ・まちなかの数か所に行政機能を分散配置	○		○		○		
2	岐阜県 北方町	【機能】 防災公園	・ <b>防災公園との連携</b> を重視した広場整備		○				○	
3	福岡県 糸島市	【機能】 防災広場	・ <b>防災広場と庁舎の一体整備</b> ・既存庁舎の業務を継続しながら、新庁舎の建設		○			○		
4	群馬県 富岡市	【機能】 広場	・庁舎と広場を一体的に活用することで、新たな <b>にぎわいを創出</b>		○			○		
5	神奈川県 横浜市	【機能】 商業施設	・低層部の飲食・物販・サービス等の <b>商業施設</b> によるにぎわい空間の創出		○	○				
6	東京都 渋谷区	【機能】 ICT 【手法】 定期借地権	・新たな <b>ICT基盤を土台</b> に職員の働き方改革 ・定期借地権の権利金により区の <b>建築費の負担ゼロ</b> で新庁舎・新公会堂を整備		○		○			
7	東京都 豊島区	【手法】 再開発事業	・旧小学校跡地等を活用した <b>市街地再開発事業により、民間の商業・業務施設、分譲マンションと合わせて整備。区の財政負担が実質なし</b> で建替えが実現		○	○				
8	岩手県 紫波町	【手法】 PFI (BTO方式)	・新庁舎の整備・維持管理を行う <b>BTO方式のPFI事業</b> ・未利用となっていた紫波中央駅前の町有地において、複数の <b>公民連携事業を行う「オガールプロジェクト」</b> の一つ		○			○		
9	愛媛県 西予市	【プロセス】 職員意識改革	・庁内ワークショップにより、インプットやアウトプットの <b>プロセスを通じて、職員の意識改革</b> をしていくことで、 <b>働き方改革</b> を進める		○		○			
10	宮城県 仙台市	【機能】 低層部連携	・ <b>低層部・周辺公共空間（広場等）</b> と一体となった <b>公民連携による管理運営</b> を検討中		○			○	○	

# 1. 長岡市：庁舎とナカドマ、関連施設等が一体的に整備し市民に開かれた庁舎整備

開設年	平成24年4月
規模	敷地面積：14,938.81㎡ 建築面積：12,073.44㎡ 延床面積：35,492.44㎡ 階数：地下1階、地上4階、塔屋1階
構造	鉄筋コンクリート造 ＋一部鉄骨造・プレストレストコンクリート造
用途	市役所庁舎、市議会議場、アリーナ、市民交流ホール、屋根つき広場（ナカドマ）、駐車場
建設費	総額約131億円 【財源内訳】 補助金（まちづくり交付金等 2,900百万円）、地方債5,400百万円、一般財源300百万円、都市整備基金4,500百万円
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所本庁機能を中心市街地活性化のために集約し、関連施設と一体整備</li> <li>・まちなかの数か所に行政機能を分散配置</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街に接する旧厚生会館部分を種地とし、隣地を含め敷地を一体化してアリーナ、市民利用施設（会議室等）、庁舎を配置。中央には屋根付広場が設けられている。なお、庁舎は施設全体の1/3程度の約12,000㎡。</li> <li>・行政や議会、市民利用等の各種機能を明確に区分せず、意図的に混在させることで機能間の結びつきの強化を図る。</li> </ul>

## 市役所機能のまちなか分散



- ・庁舎を3カ所に分散
- ・アオーレ長岡には、総合窓口や市民活動拠点を集約

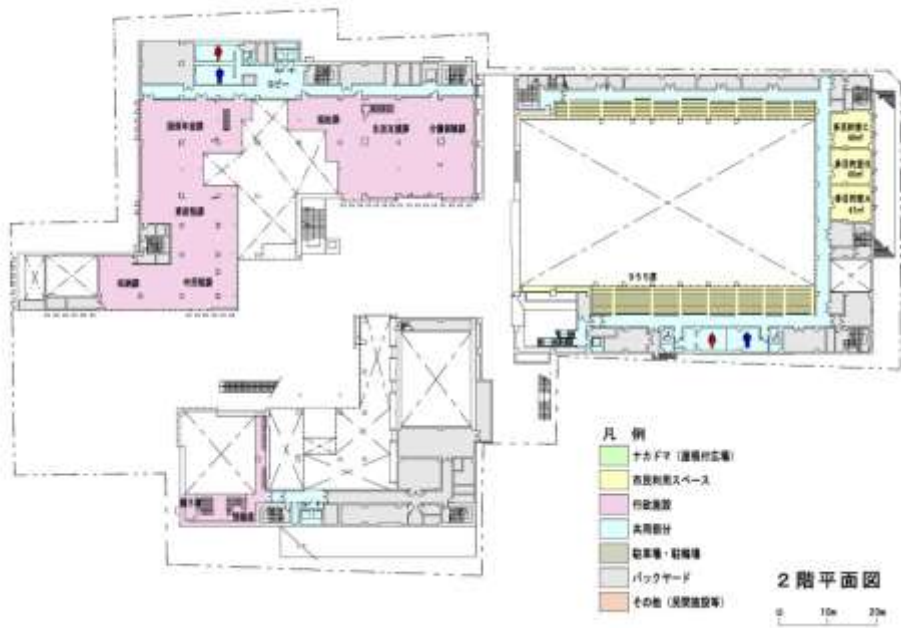


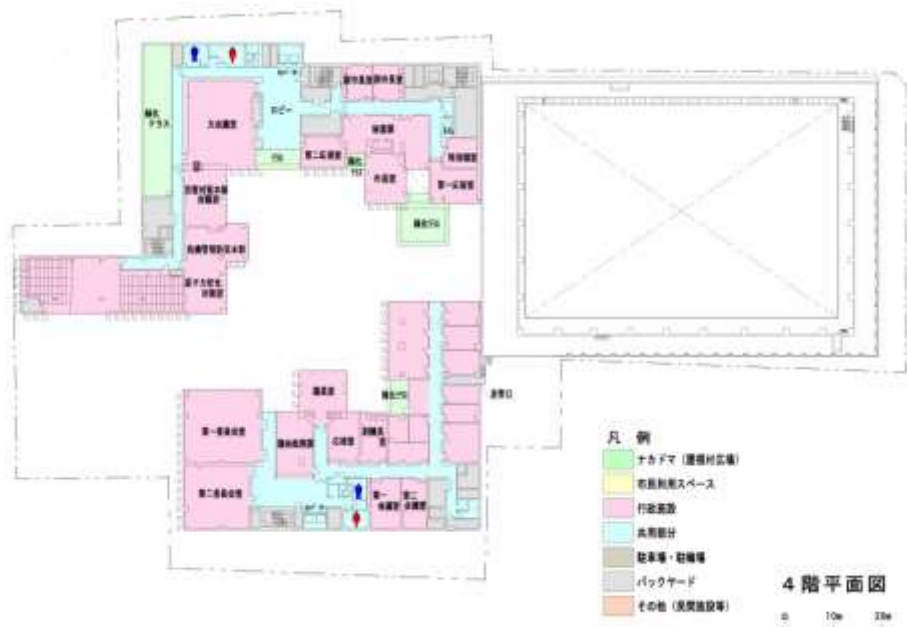
ナカドマ



市民総合窓口







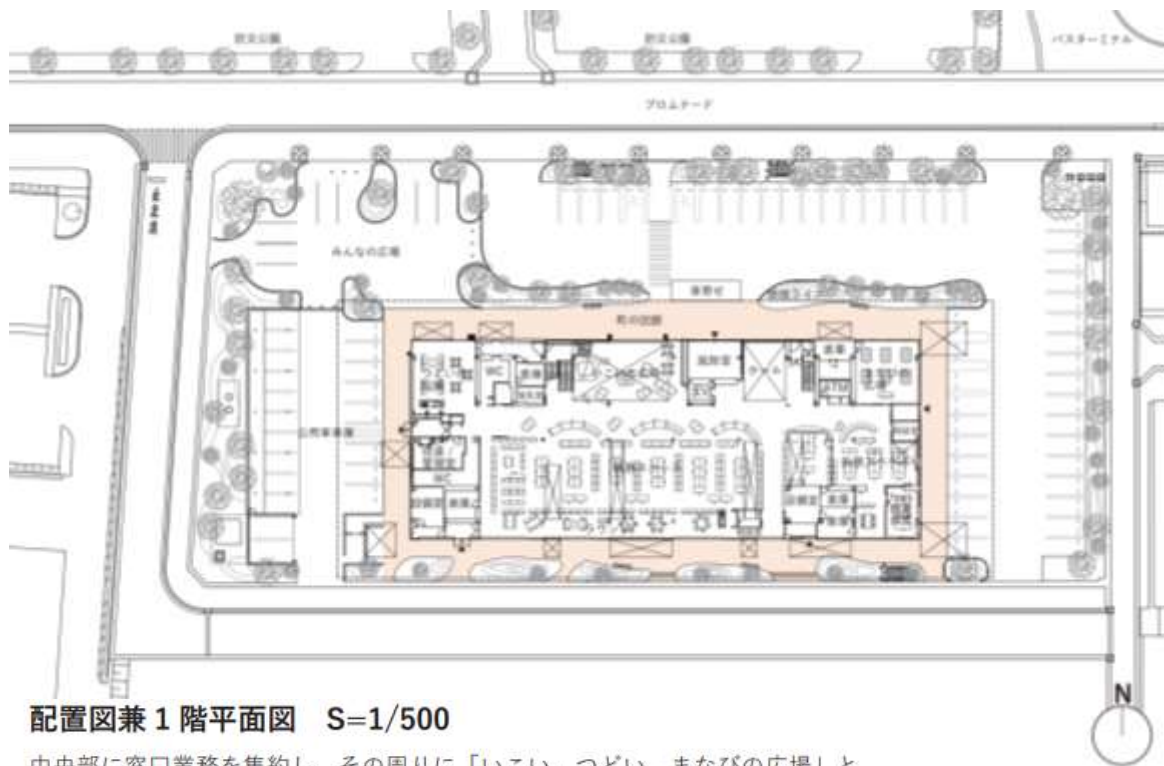
## 2. 北方町:建物の内外をつなぎ、防災公園との接続性を高めた広場

開設年	平成28年4月
規模	敷地面積：5,760.36㎡ 建築面積：2,690.11㎡ 延床面積：5,220.53㎡ 階数：地上3階
構造	鉄骨造（免震構造）
用途	市役所庁舎
建設費	約18.1億円
ポイント	・ 防災公園との連携を重視した広場整備
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大屋根の軒下に建物の内外を繋ぐ「町の回廊」、敷地外周部に周辺環境との連続性を生む「緑の回廊」を設置。</li> <li>・ 防災公園との接続性を高め、バスターミナル、図書館、生涯学習センターをつなぐプロムナードに面して、憩いの場となる広場を敷地内に設けるなど、「公園都市」（公園や道路などの都市を形作る公共インフラ整備などハード面）「人間都市」（人の絆や公共心を培うソフト面）を標榜する庁舎。</li> </ul>

### 防災公園との一体性を持たせる計画

- ・ 防災公園に面している空間に「みんなの広場」、「つどいの広場」、「いこいの広場」、「まなびの広場」を整備

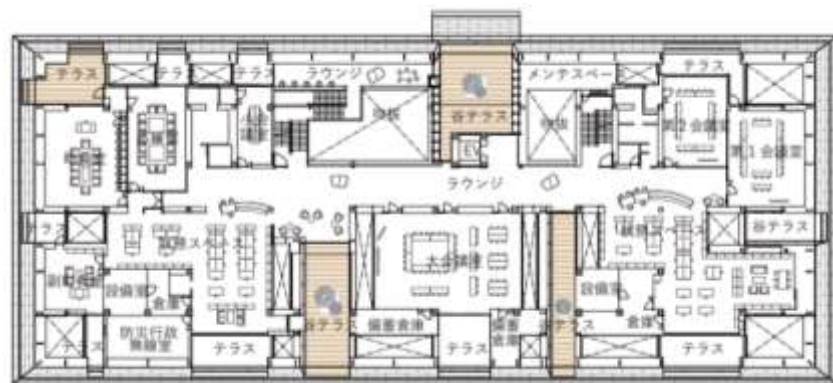




中央部に窓口業務を集約し、その周りに「いこい、つどい、まなびの広場」と玄関ホール、町民との打ち合わせにも使える職員ラウンジを配置している。



中央の議場を挟むように、東側は議会関連諸室、西側は職員食堂や更衣室、機械室などで構成している。

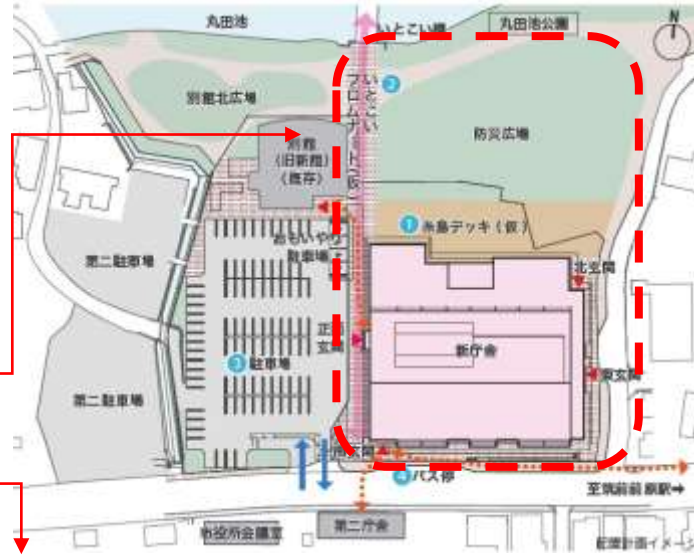


町長、副町長、総務課、上下水道・都市計画課と、防災拠点ともなる大会議室などで構成している。  
災害時に有効に使える大きさの異なる会議室を集中的に配置している。

### 3. 糸島市:防災広場と庁舎の一体整備

開設年	令和6年予定（基本設計書 R2.7月）
規模	敷地面積：8,000㎡ 建築面積：3,200㎡ 延床面積：11,800㎡ 階数：地上6階
構造	鉄筋コンクリート造（免震構造）
用途	市役所庁舎
建設費	約64.9億円 （うち防災広場等の周辺整備費 約2.1億）
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災広場と庁舎の一体整備</li> <li>・既存庁舎の業務を継続しながら、新庁舎の建設</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糸島市役所（本館）は、1970年11月の竣工。</li> <li>・老朽化が進み、維持管理費用も増加傾向にあり、早急な対策が求められる中、新庁舎建設計画は、災害時の避難所・情報発信の拠点としての役割など、多目的に活用できるように「まちづくりを創造する庁舎」をコンセプトに策定された。</li> <li>・新庁舎を丸田公園に建設することで、仮設庁舎や仮設駐車場の整備が不要となる。また、丸田公園に建設することで、近接の「丸田池公園」と一体となった開発が可能となり、公園機能の拡充も行われる。</li> </ul>

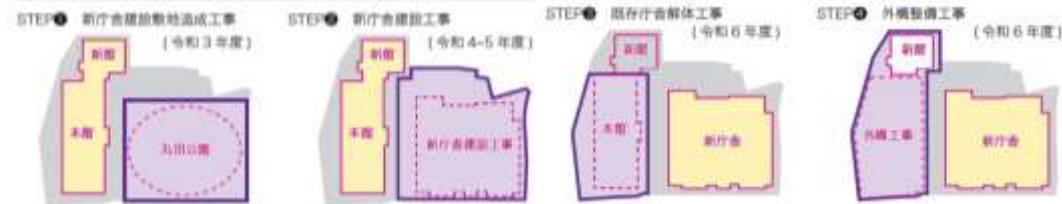
防災広場と庁舎の一体整備



- ・防災広場の整備や近隣の丸田池公園との一体開発

公園跡地を活用した効率的な整備

- ・敷地内の公園を解体し、庁舎の造成工事を行い、公園跡地に新庁舎を建設
- ・既存庁舎の業務を継続しながら、同じ敷地に新庁舎を建設





## 7. 平面計画

### 1階 窓口部門

丸田池公園と一体利用を可能とした開放的な市民活動エリアを計画します。  
待合スペースをし字に配置し、視認性が高く分かりやすい窓口を計画します。

○証明発行、住民異動、税に関する事など

丸田池公園と一体利用が可能で  
様々な市民活動やイベントに  
活用できる市民ホール

職員や市民の憩いの場となる  
売店・カフェ

二階の抜けの手続き  
開放的なエントランスホール

市民者からわかりやすく  
フロア全体を編成できる  
統合案内

EV  
ホール

多機能  
トイレ

南玄関



市民ホールを開放した際のエントランスホールイメージ

### 2階 窓口部門

開放的なテラスを持ち、親子連れにも配慮した待合スペースをもつ計画とします。

○健康、福祉、学校に関する事など

1・2階の窓口の行き来を  
しやすくするオープン階段

市民ホール  
(多目的ホール)  
上層

テラス

丸田池公園一望でき、  
北向きでやさしい  
景光を確保した待合

開放

ロビー

EV  
ホール

多機能  
トイレ



### 3階 執務・窓口部門

執務室は間仕切りのないオープンフロアとし、床吹き出し空調を採用します。

○建設都市、産業振興、上下水道に関する事など

柔軟に使える  
前仕の執務空間

多機能  
トイレ

EV  
ホール

市民ホール  
(多目的ホール)  
上層

テラス

丸田池公園一望でき、  
北向きでやさしい  
景光を確保した待合

開放

ロビー

EV  
ホール



## 7. 平面計画

### 4階 執務・防災部門 市庁舎の中枢を担う防災機能を集約し、あらゆる災害に対応できる計画とします。

○総務、企画、危機管理に関する事など



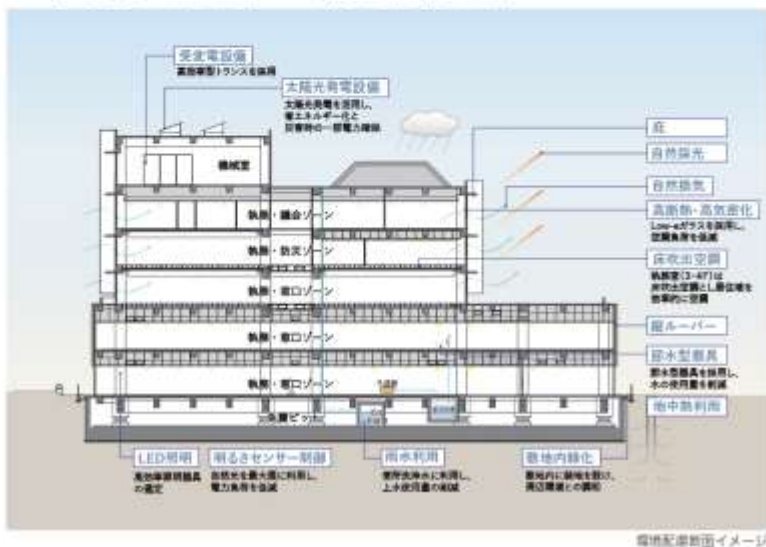
### 5階 議会・執務部門 眺望を活かした展望ロビーと、議会議室を計画します。

○議会に関する事など



## 8. 環境配慮計画

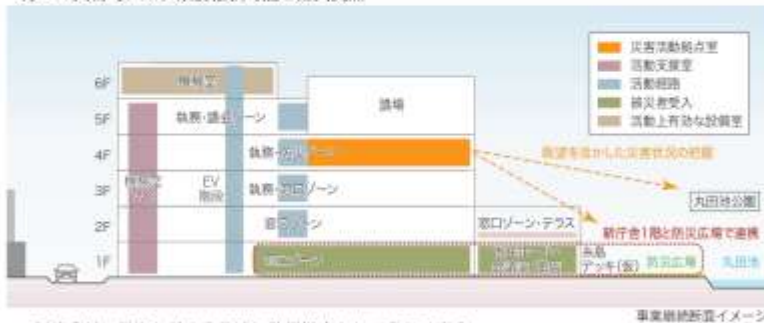
豊かな自然エネルギー活用と高効率な設備システムの採用を図ります。  
・「省エネ基準値 50%以上削減 (ZEB Ready)」を達成する計画とします。



環境配慮断面イメージ

## 9. 事業継続計画

万一の災害時にも、業務継続可能な防災拠点

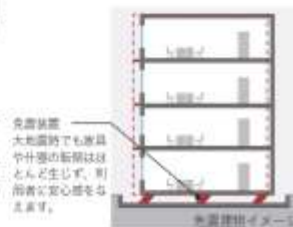


事業継続計画イメージ

・新庁舎は、災害などの非常時に防災拠点として市民の安全を支える重要な役割を担います。災害復旧活動の支援、関係機関との連携など、災害直後から長期にわたる復旧活動まで、防災拠点として業務継続できる庁舎を計画します。

### 構造計画

・地震や台風といった自然災害に対する建物の損傷リスクを低減する構造とします。  
・災害発生後の建物機能の保持に加え、連続した災害発生時にも建物機能を保持し、確実な業務継続を可能とする庁舎とするため免震構造を採用します。



## 4. 富岡市：庁舎と広場の一体的な活用によるにぎわい創出

開設年	平成30年3月
規模	敷地面積：8,093.92㎡ 建築面積：3,765.10㎡ 延床面積：8,575.54㎡ 階数：地上3階
構造	鉄筋コンクリート柱・鉄筋梁混合構造
用途	市役所庁舎
建設費	約47.1億円
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎と広場を一体的に活用することで、新たなにぎわいを創出</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎の目の前は駐車場にせず、あえて人のにぎわいを呼ぶコミュニティスペースを整備</li> <li>・芝生の広場では、週末を中心にイベントが開かれている。集まった人たちは、庁舎の庇の下で日差しを避けたり、木ルーバーの並ぶ2階のテラスに上がったりして、広場と一体的に庁舎を使っている</li> </ul>

### 庁舎+広場による賑わい空間の創出

- ・広場や議会棟のエントランスは各種イベントや市民会館の場として利用可能

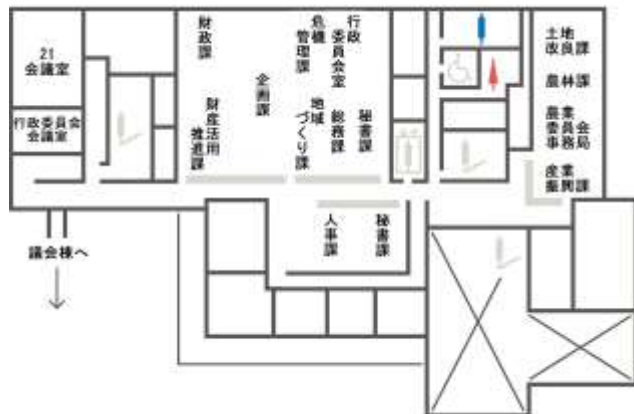


# 行政棟

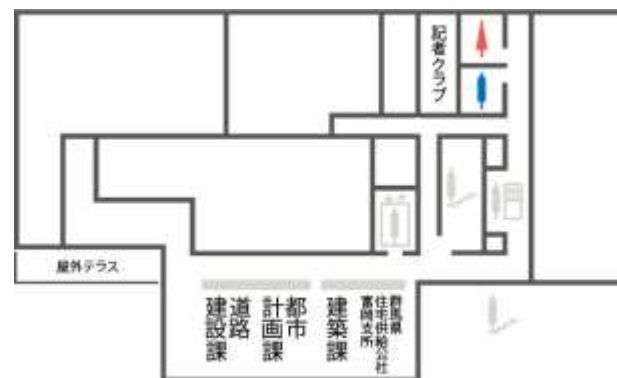
## 1階フロア図



## 2階フロア図



## 3階フロア図

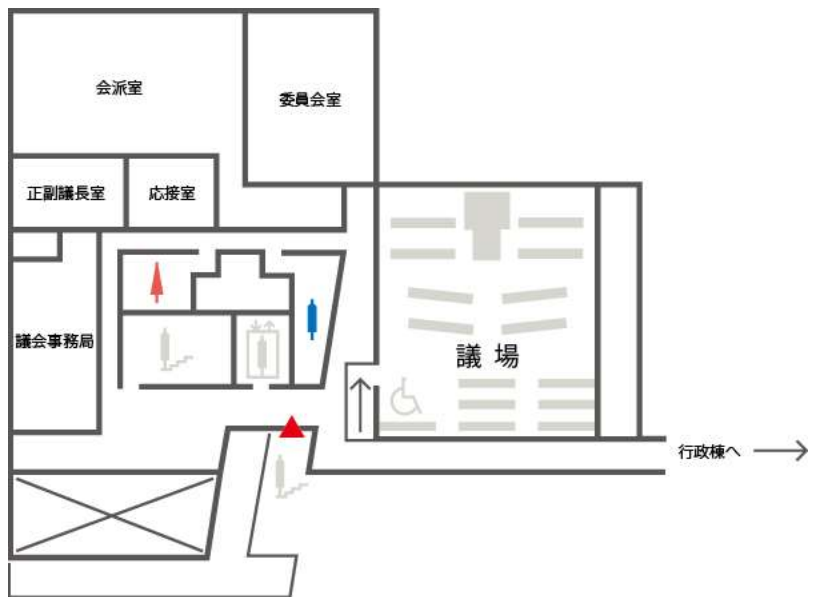


# 議会棟

## 議会棟1階



## 議会棟2階



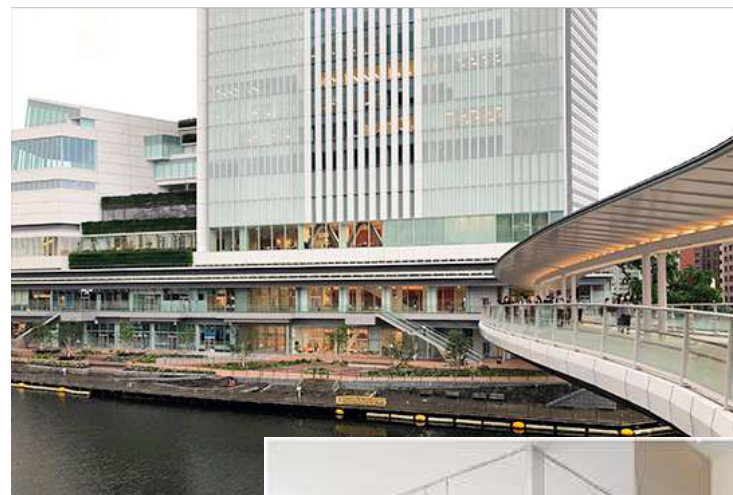
## 議会棟3階



## 5. 横浜市：庁舎と商業施設の一体化によるにぎわい創出

開設年	令和2年6月
規模	敷地面積：約13,160㎡ 建築面積：約7,932㎡ 延床面積：約142,600㎡ 階数：地下2階、地上32階、塔屋2階
構造	鉄骨造（コンクリート充填鋼管造）等 中間層免震構造+制振構造
用途	市役所庁舎、商業施設（飲食、物販）
建設費	約709億円
ポイント	・低層部の飲食・物販・サービス等の商業施設によるにぎわい空間の創出
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上32階地下2階の超高層ビルで、高層、中層、低層の3層構成。</li> <li>・1～3階の低層部は、十分な天井高を確保した開放的な空間。多様な活動、にぎわいを創出するアトリウムや市民利用施設、商業施設を配置。商業施設は、19店舗が出店。</li> <li>・3～8階の中層部に3層吹き抜けの議場を含む議会機能。</li> <li>・9～31階の高層部は行政機能を集約。</li> <li>・DB方式が採用。</li> </ul>

### 商業施設によるにぎわい空間の創出



- ・商業施設「ラクシス フロント」は「YOKOHAMA PREMIUM PUBLIC（横浜市民が共有する付加価値の高いパブリックスペース）」をコンセプトに横浜市役所の1・2階部分に位置する商業施設
- ・飲食店や書店など全19店から成り、京急電鉄が運営

## フロア案内1階：



## フロア案内2階：

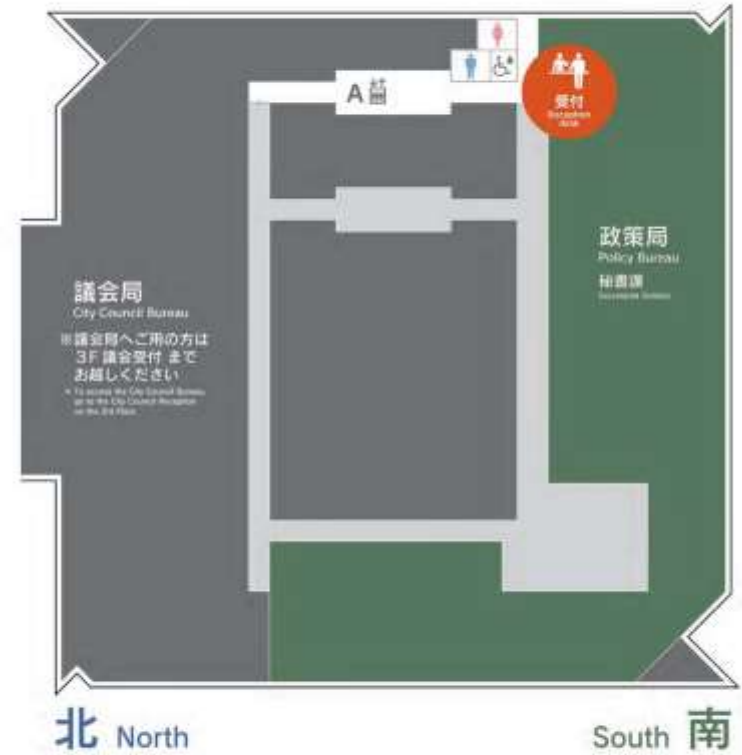


フロア案内3階 :



# 8 フロアマップ

Floor Map



- エレベーター Elevator
- 男性トイレ Men's Restroom
- 女性トイレ Women's Restroom
- バリアフリートイレ Accessible Restroom



# 31 フロアマップ Floor Map



北 North

South 南

エレベーター  
Elevator

男性トイレ  
Men's Restroom

女性トイレ  
Women's Restroom

バリアフリートイレ  
Accessible Restroom

自動販売機  
Vending Machine



## 6. 渋谷区:新たなICT基盤を土台に職員の働き方改革

開設年	平成31年1月
規模	敷地面積：約7,853㎡ 建築面積：約2,232㎡ 延床面積：約31,930㎡ 階数：地下2階、地上15階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 / 鉄骨造
用途	市役所庁舎
建設費	定期借地権の評価額 211億円 (区の財政負担ゼロ)
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなICT基盤を土台に職員の働き方改革</li> <li>・定期借地権の権利金により区の建築費の負担ゼロで新庁舎・新公会堂を整備</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーアドレスのオフィスが実現、さらに職員が自由に使えるワークラウンジが設けられるなど、モバイルワークが推進。</li> <li>・BYOD（私物デバイスの活用）を開始。</li> <li>・約1,900台のノートPCが導入され、区の職員にほぼ1人1台の割合で配布。</li> <li>・文書管理システムを導入し、公文書の電子化を促進。</li> <li>・区役所と公会堂の整備事業。区は旧庁舎と旧公会堂の敷地の一部に70年の定期借地権を設定し、事業者は定期借地した敷地に分譲マンションを整備。</li> </ul>

### ICT基盤のアップデートによる区政運営改革

	Before (～2018.12)	After (2019.1～)
PC	デスクトップPC (一部ノートPC)	Surface Pro 6 (一部ThinkPad)
モバイルワーク	不可 (庁内の有線LAN接続環境のみ)	可 (区内全施設に無線環境。Wi-Fiルータを用いて区外からの接続も可能)
情報共有	SharePointサイトのリストと掲示板	SharePointサイトとMicrosoft Teams
スケジュール管理	無し (一部SharePointサイトの予定表)	Outlookで全職員の予定が閲覧可能
会議室予約	会議室予約システムで「午前・午後1・午後2・夜間」のロット単位で予約	Outlookで会議室を予約すると、会議参加メンバーの予定表にも会議が登録
電話	アナログ電話のみ (係に数台)	IP電話 (全職員にSkype for Business)
BYOD	不可	可 (iOS、Android)
決裁	紙による押印決裁のみ	電子決裁 (ほぼ100%実施)
セキュリティ研修	新任研修時の集合研修のみ	毎年全職員がeラーニングとテスト受講
印刷	課ごとに配備したレーザープリンタから印刷、コピー機は別途配備	各フロアに配備した複合機でセキュアプリント、コピー、スキャン
サーバー・ネットワーク運用管理	特定の職員に依存していたため、迅速な対応が困難で、ノウハウの継承も不可能	運用を事業者に委託。ICTサービスデスクを導入し、作業依頼や障害受付を一元化



会議室での大型モニター利用



会議室の部屋前端末



カード認証によるセキュアプリント



1Fには誰でも利用できるフリースペースを配置

エレベーター エスカレーター 階段



1F



基準階は、廊下に沿って窓口カウンターを設置し、シンプルな配置構成



基準階



高齢者や障がい者の利用が多い福祉関連部署を中心に配置し、高齢者等の利用に配慮



2F



8Fに共用会議室を集約して配置  
※8Fには危機管理対策部を配置し、発災時はフロア全体を災害対策本部として活用



8階



区民利用が多い区民手続き（住民戸籍課/国民健康保険課）を3Fに配置し、来庁者の利便性に配慮



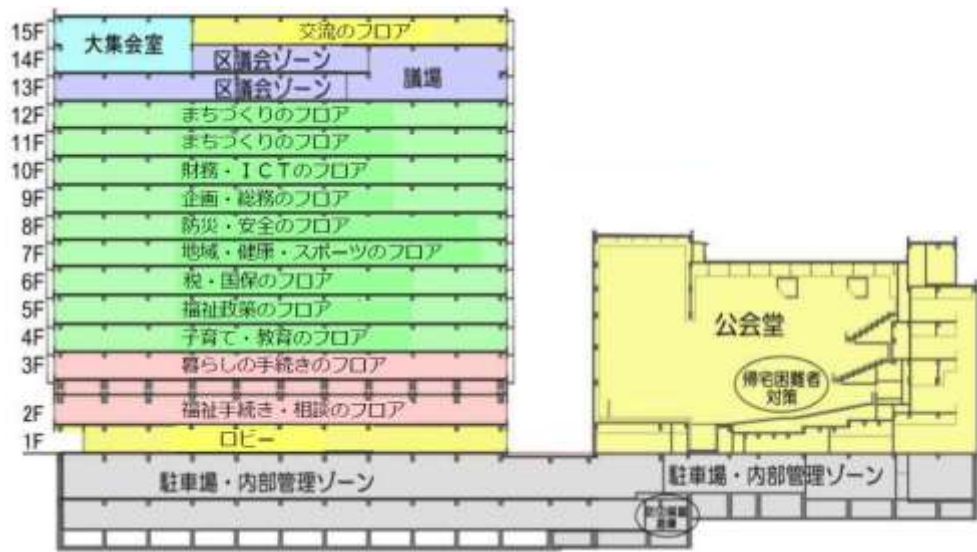
3F



15Fはスペース426（多目的スペース）として様々な展示や行事が可能な空間として計画



15階



## 7. 豊島区:公共施設、商業施設、集合住宅等の一体的開発・整備

開設年	平成27年5月
規模	敷地面積：約8,324㎡ 建築面積：約5,319㎡ 延床面積：約94,681㎡ 階数：地下3階、地上49階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造/（中間免震） 鉄筋コンクリート造/一部鉄骨造
用途	市役所庁舎、店舗、事務所、 共同住宅（432戸）、駐車場
建設費	429.8億円
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区有財産を有効活用した庁舎施設の複合化</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧小学校跡地等を活用した市街地再開発事業により、民間の商業・業務施設、分譲マンションと合わせて整備。</li> <li>・ 1～2階は商業・業務施設、新庁舎は1階の一部と3～9階に配置、10階は屋上庭園及び中間免震層、11～49階は分譲マンション。</li> <li>・ 住宅フロアは、販売されて、庁舎の建設費や補償費に充てられ、さらに、旧区役所跡地は定期借家によって民間に貸与。</li> </ul>

### 市街地再開発事業による新庁舎整備

#### 新庁舎整備の仕組み

新庁舎整備を前提に進めた再開発事業の施行区域は約1.0haでした。南側の旧小学校跡地を中心に区の所有地が約6割、残りの4割が民間の所有地でした。豊島区はこの区の資産を権利変換し、約85億円分の庁舎の床10,740㎡を無償で取得しました。不足する床（14,832㎡と駐車場等1,049㎡）については再開発組合から購入しました。

床の購入費123.8億円とオプション費用等を合わせた費用は135.9億円でしたが、その財源は移転後の旧庁舎地を資産活用し、76年6か月の定期借地権で貸し付け、その地代の一括前払いにより191億円を調達しました。





# 1F B1 B2 エントランス・区民交流ゾーン

あらゆる方向から来庁が可能です

新庁舎は全方向からアプローチが可能なように、入口を4か所設け、建物中央の「アトリウム」に誘導します。アトリウムには区役所総合案内を設置し、来庁されたみなさんの用件を伺い、目的の窓口に迷わず行くことができるよう、適切な案内・誘導を行ないます。

アトリウムに隣接し多目的スペース「としまセンタースクエア」、駐輪場があります。地下1階には、駐車場、バイク置場、地下2階には地下鉄駅直結の地下通路があります。

## アトリウム

アトリウムは1階から9階まで吹き抜け空間となっています。

右側には、区役所総合案内、エレベーターホール、左側には「としまセンタースクエア」の入口が見えます。奥には休日・夜間受付が、エレベーターホールには、庁舎専用エレベーターが7基稼働します。4階まではエスカレーターも利用できます。



## としまセンタースクエア

「としまセンタースクエア」は、区の主催事業や区民のみなさんとの共催、協賛事業など多様な活動に使用できる多目的スペースです。

災害時には、被災情報の提供、生活相談、貸付など各種相談窓口の開設場所として利用します。



## 地下通路

有楽町線「東池袋駅」と直結する地下通路により、新庁舎からサンシャインシティまで地下で結ばれました。



▲地下通路と庁舎をつなぐ地下2階ロビー



▲地下通路



▲企画開催時のイメージ



▲災害時の利用イメージ

## としまセンタースクエアの概要

面積	約450㎡（2分割可能）
設備	テーブル50台、椅子300脚、バーション50台、演台1台、昇降式ステージ（8m×4m）
音響設備	講演会、式典等の音響設備は常設
映像設備	200インチ昇降式スクリーン、プロジェクター

## 3F 窓口サービスゾーン

短時間で用件を済ませることが出来ます

### 345日開かれた庁舎

ワンフロアを広く確保し、区民利用が多い申請や届出の窓口を集約するとともに、ITを積極的に活用し、効率的に要件を済ませることができる、便利な窓口を実現します。

#### 総合窓口

これまで引越し等の手続きの際、複数の課で手続きを行なう必要がありましたが、総合窓口では、最新のITシステムを導入することで複数の手続きを1か所で行なえるようになり、時間の短縮が図られます。また、複数の申請書を1枚に統合するとともに、申請書作成システムを導入することで、住所など同じ内容を何度も繰り返し書くことがなくなります。



▲総合窓口のイメージ

#### 年末年始を除く土曜日・日曜日 通年開庁します

3階の総合窓口と4階の福祉総合フロアは、年末年始を除く全ての土曜日、日曜日、午前9時から午後5時まで開庁します。

また、新庁舎では代表電話番号3981-1111をそのまま利用したコールセンターを開設し、年中無休でお問合せに対応します。



▲待合ロビーのイメージ

#### エスカレーターで総合窓口へ

地下2階から3階・4階の窓口サービスゾーンまでエスカレーターも利用できます。

3階エスカレーター正面の総合窓口案内では、フロアマネージャーが用件を伺い、目的の窓口を案内します。



▲3階と4階をつなぐエスカレーター



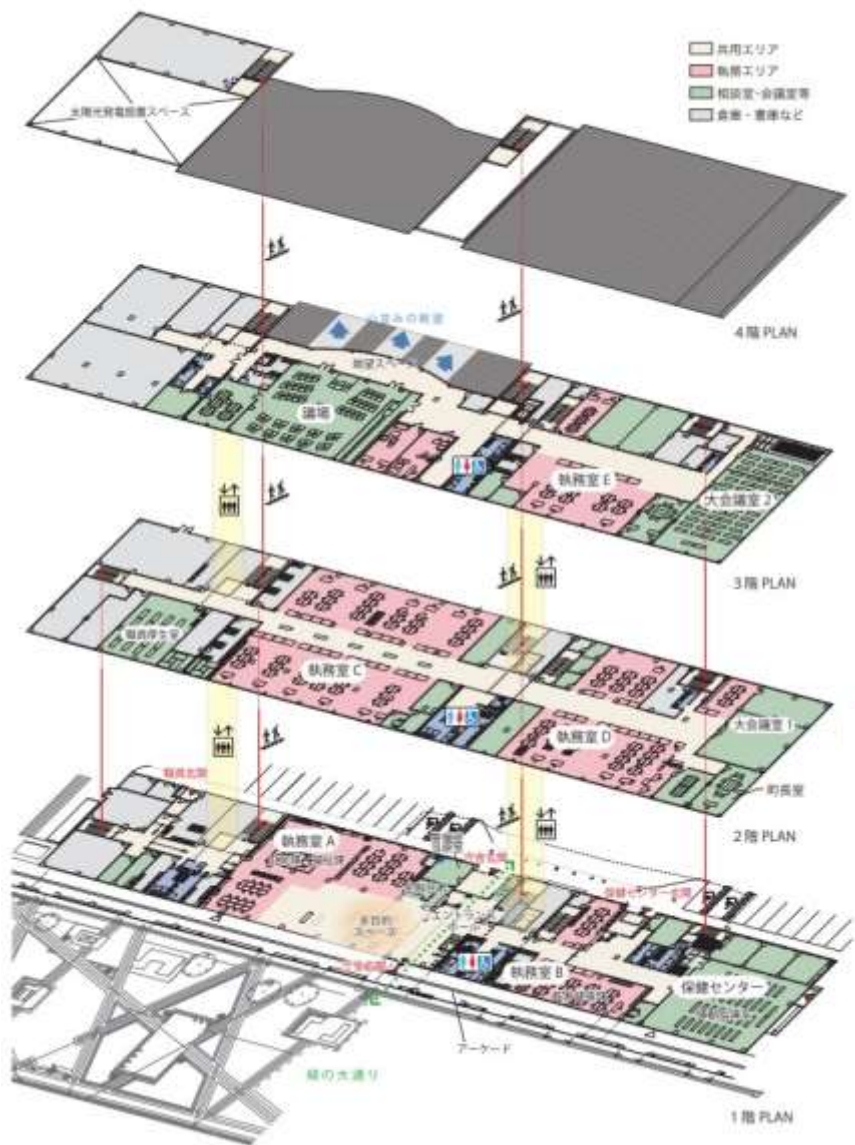


## 8. 紫波町:長期にわたる民間の関与で継続的なにぎわいを創出

開設年	平成27年3月
規模	敷地面積:6,602.77㎡ 建築面積:2,584.05㎡ 延床面積:6,650.43㎡ 階数:地下1階、地上4階
構造	庁舎:木造、一部鉄筋コンクリート造 車庫棟:鉄骨造
用途	市役所庁舎
建設費	約34億円
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新庁舎の整備・維持管理を行うBTO方式のPFI事業</li> <li>・未利用となっていた紫波中央駅前の町有地において、複数の公民連携事業を行う「オガールプロジェクト」の一つ</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・築50年が経過し、老朽化した役場庁舎の移転新築事業。新庁舎の整備にあたってはPFI法に基づくBTO方式として、設計・建設・維持管理（15年間）を紫波シティホール（株）が受託し、事業を進めている。</li> <li>・構造躯体は100%町産材を活用。木造庁舎としては、国内最大級の規模。</li> </ul>

### 事業スキーム

施設規模	敷地面積:6,602㎡ 延床面積:6,650㎡ ・公共施設(庁舎)			
事業方式	PFI(BTO方式)			
事業類型	サービス購入型			
事業期間	平成24年9月～平成42年3月(17年6ヶ月) (設計・建設:2年6ヶ月/維持管理:15年)			
事業費	約34億円(税込、契約金額)			
官民の役割分担	<p>【公共の業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎の運営業務</li> </ul> <p>【民間事業者の業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎の設計、工事監理、建設、維持管理業務</li> <li>・資金調達</li> </ul> <p>〈業務分担のポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的かつ包括的な委託を行うことにより、維持管理期間を通じた適時の補修等の実施、中長期的な視点での業務改善の実施、セルフモニタリングの実施等が行われ、長期的な視点での業務全体の最適化により維持管理内容が向上することが期待されたため、設計、工事監理、建設、維持管理を業務範囲とした。</li> </ul>			
VFM	特定事業選定時	6%	事業者選定時	6%
事業者	◎は代表企業 ◆は地元企業 ◎橋建設(株)◆、(株)久慈設計、(株)寿広、岡崎建設(株)◆、佐々木建設(株)◆、(株)富岡鉄工所◆、(株)十文字組◆、紫波建設(株)◆、(株)興和電設			
応募グループ	1グループ			
スケジュール	平成23年8月	紫波町新庁舎整備事業PFI導入可能性調査報告書作成		
	平成23年12月	実施方針公表		
	平成24年1月	特定事業の選定		
	平成24年2月	入札公告		
	平成24年6月	落札者の決定		
	平成24年9月	事業契約の締結		
	平成27年4月	開庁		
活用した制度等	木造建築技術先導事業(国土交通省)			



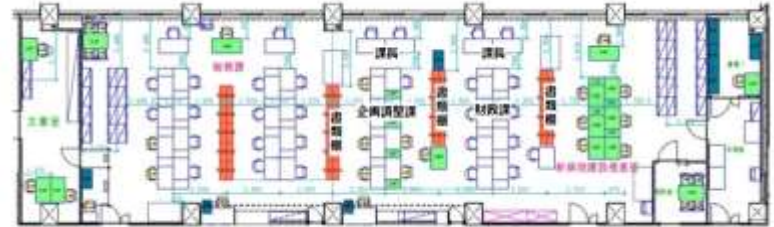
外観



## 9. 西予市:庁舎整備と職員意識改革・チャレンジマネジメントなど推進プロセスのデザイン

開設年	平成23年4月
規模	敷地面積：8,432.80㎡ 建築面積：1,859.28㎡ 延床面積：7,257㎡ 階数：地上6階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 / 鉄骨造
用途	市役所庁舎
建設費	約17.5 億円
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内ワークショップにより、インプットやアウトプットのプロセスを通じて、職員の意識改革をしていくことで、働き方改革を進める</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若手職員によるワークショップを開催し「自分たちがどんな空間で働けばワクワク仕事ができ、生産性が向上するか。市民と職員が活発なコミュニケーションを図るにはどのような空間が良いか」等々、『Changeせいよ！～挑む・つながる・楽しむ～』をコンセプトに、オフィスを改修。</li> <li>・ オフィス改革ファシリテーター：京都工芸繊維大学 仲隆介教授 / 設計：(株)オープン・エー 馬場正尊+加藤優一</li> </ul>

### 市役所オフィス改革（働き方改革）

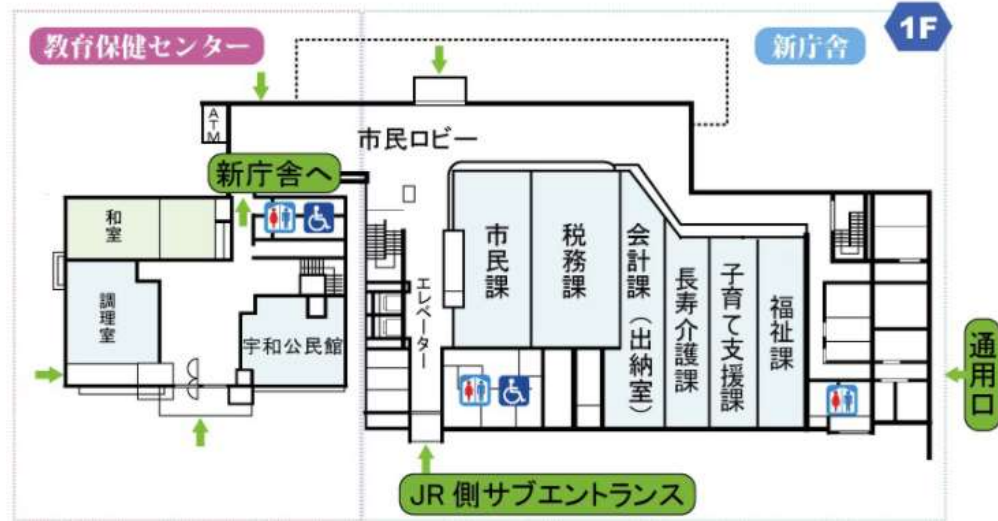
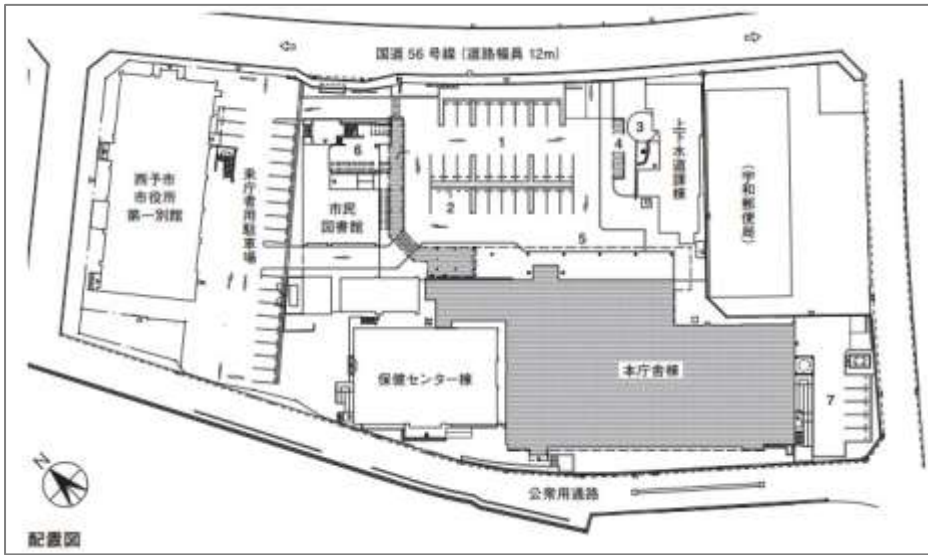


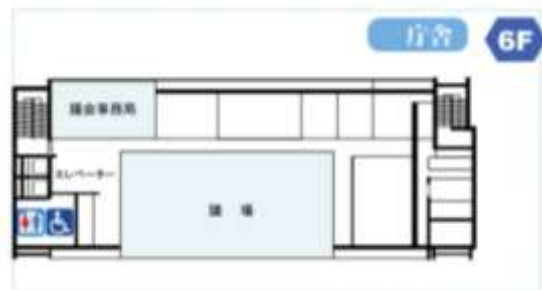
中層下

- ・ 新しい働き方を試行錯誤できる働く環境をデザイン
- ・ 仕事の内容によって席を使い分けられるようにレイアウトを変更



西予市役所4階のオフィス



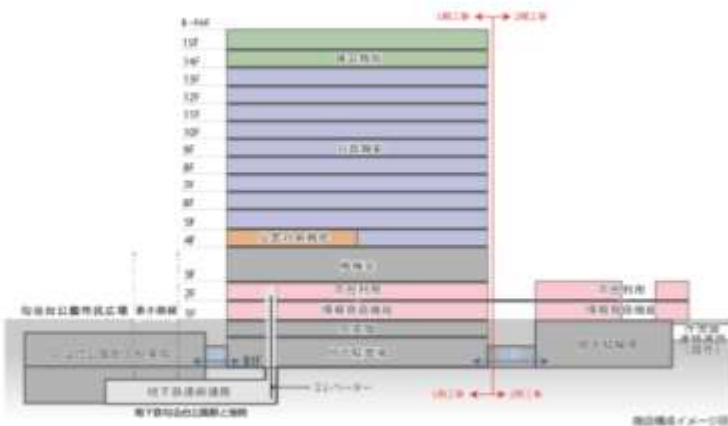


# 10. 仙台市：低層部・周辺公共空間(広場等)と一体となった公民連携による管理運営を検討中

開設年(予定)	令和10年度(予定)
規模	敷地面積：約14,595㎡ 建築面積：約6,700㎡ 延床面積：約62,000㎡ 階数：地下1階、地上15階
構造	鉄骨造/一部鉄筋コンクリート造 (低層部の一部を木造化検討)
用途	市役所庁舎
設計・建設費	約385億円
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新本庁舎低層部を中心とした新本庁舎内の共用空間、及び敷地内広場や勾当台公園市民広場を含む公共空間の一体的利活用の検討や、市民利用・情報発信機能の施設整備や維持管理、運営等の検討、民間活力の導入手法と範囲、最適な事業スキーム等の整理を専門家により取りまとめ。具体化に向け検討中。</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の本庁舎敷地への立地を基本方針とし、市民の生活や活動を支える市民中心の市役所機能を強化し、杜の都の魅力など、仙台らしさを市民が感じられる環境を整備するとともに、過去の伝統、経験を未来へとつなぐ役割を担わせる形で整備。</li> <li>・基本計画で「まちづくり・賑わい・協働」「災害対応・危機管理」「利便性」「持続可能性・環境配慮」の4つの基本整備方針を定め、基本設計で具現化。</li> </ul>

3-4. 施設構成

- 【市民利用】14～15階  
議決階数は14～15階に配置します。14階には議決や議決後処理、15階には議決センターや議員会室を配置します。
- 【市民利用】4～13階(一部1～2階)  
行政機能は市民利用・情報発信機能及び議決階数との相互連携を考慮し、4～13階に配置します。市民利用の中心行政機能は一部1～2階に配置します。
- 【災害対策機能】4階  
平時の他に災害に対応が必要となる災害対策機能は、行政機能と連携が図れるよう、4階に配置します。
- 【市民利用・情報発信機能】1～2階  
市民利用・情報発信機能は、市民に等と一歩利用できるよう、1～2階に配置します。また、市民利用・情報発信機能の導入により、市民の利便性を向上させ、まちの賑わい・活性化を図ります。
- 【市民利用・情報発信機能】1～2階  
地下1階に駐車場、自転車置き場、勾当台公園地下駐車場・市民広場等が併設され、利便性を向上させます。



## <導入機能（案）>

- ①社会や地域の課題に対する意識啓発など、提案型イベントの機能等 ⇒Policy lab
- ②地域や観光情報などを、様々なメディアを活用して情報発信する機能等 ⇒Cross Media lab
- ③研修や共有のワークスペースを利用した仕事や議論ができる空間、飲食・物販の提供等もきっかけに市民が日常的に訪れ、市の政策に触れ・学ぶ機能等 ⇒Living lab

### 本庁舎建替基本計画（新本庁舎が目指す3つの方向性）

#### 協創・共創の場で市政課題を解く

- ・市民・議会・行政と一緒に協創・共創できる場となるよう、**多様な市民が集い参画できる庁舎として整備**

#### 市民が集う多彩な協働の杜をつくる

- ・更なるまちの賑わいのため、市民広場等と**一体的な空間となるよう配慮**
- ・市民が集い安らぐ憩いの場

#### 杜の都・防災環境都市を発信する

- ・杜の都のアイデンティティ(伝統)や防災環境都市の取組み(経験)を百年先まで**発信する市庁舎**

### 機能分類 (例・仮称)

### 3つの方向性実現に向けて必要と考えられる機能・多様な活動（例）

<b>Policy Lab</b>	※市民等が、上記3つの方向性実現のため、自ら考えた実施可能な政策アイデアを出すことができる機能/活動 ・地域課題等に関する個別相談スペース/活動 ・エリアマネジメントやまちづくり団体の活動スペース/活動 ・ピッチイベント(社会課題解決・提案型イベント等)、交流会 ・起業・企業成長支援セミナー等		
<b>Cross Media Lab</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者参加型のメディアやコンテンツの展示/活動</li> <li>・都市政策に係るパネル・模型展示等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープン参加の地域イベント</li> <li>・パブリックビューイング</li> <li>・市外訪問者への観光情報提供</li> <li>・市の特産品などを直販するマルシェ等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台市らしい生活・芸術文化イベント</li> <li>・仙台市及び東北の歴史や文化等の魅力PRスペース/活動等</li> </ul>
<b>Living Lab</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民セミナー</li> <li>・研修会、ワークショップ</li> <li>・コワーキングスペース等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティサロン等</li> <li>・飲食機能/活動等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や職員を含む幅広い世代が利用可能な展示スペース/活動等</li> </ul>

### <一体的利活用の目的>

- ①新庁舎低層部に人々が集う空間を整備し、一番町商店街や定禅寺通、勾当台公園の「賑わい」や「ゆとり」をつなぐ
- ②新庁舎（低層部・敷地内広場）、表小路線、市民広場等の一体的利活用にあたり、民間活力や公民連携の導入などにより、利用者にとって柔軟な利活用を可能とする枠組みを構築する
- ③周辺エリアにおける既存団体と連携した活動を推進・発信することで、勾当台・定禅寺通エリアの賑わいや価値を高め、まちの回遊性向上に寄与する

### <一体的利活用のめざすべき姿>

- ①多様な主体が連携した新たな価値の創造や地域課題の解決により、市民サービスの向上につながる空間を創出する
- ②まちの賑わいに貢献するため、日常的に市民が集い、交流とゆとりを楽しむ快適な空間を創出する
- ③使用者にとって使いやすい環境を目指すため、シームレスな空間づくりや手続きの簡素化を図る
- ④公民連携の取組みにより、エリア一体での活動を推進・発信するなど、周辺エリアと相互に賑わいを波及させることで、エリアの価値向上につなげる

### <一体的利活用のコンセプト>

#### 多様な主体が集い 新たなチャレンジを育む空間の創出

- ・仙台の市民協働の歴史等を背景に、市民と行政、企業等による協働・共創を育む空間を設け、新たな価値の創造を推進します
- ・仙台の持つ多様な人材や企業・大学等との連携により、地域課題の解決や市民サービスの向上につなげます
- ・快適な滞留空間や憩いの場といった、日常的に市民が集い、生活を豊かにする空間を整備します

#### シームレスで柔軟性のある 利活用スキームの構築

- ・一番町商店街や定禅寺通といった周辺エリアとの回遊性向上を図ります
- ・エリア内での連続性を意識した、シームレスな空間づくりを進めます
- ・申請手続の一本化など、利用者にとって柔軟で使いやすい空間を目指します

#### 公民連携により エリアブランディングに貢献

- ・定禅寺通や勾当台公園等での活動と連携し、相互に賑わいを波及させます
- ・地域のステークホルダー等も含めた公民連携スキームを構築します
- ・コーディネート機能を導入し、エリアでテーマ性を持った活動を実施・発信、来訪者や民間投資を呼び込むなど、エリアの価値向上につなげます



#### 一体的利活用の中心エリア

歩行空間としての南北の軸線を踏まえ、新本庁舎（低層部・敷地内広場）、市道表小路線、勾当台公園にぎわいの広場（市民広場）を特に一体的利活用を目指すエリアとしつつ、既存イベントの利用状況や維持管理・運営面から歴史の広場、いこいの広場も含めたエリアで検討を進めていく。

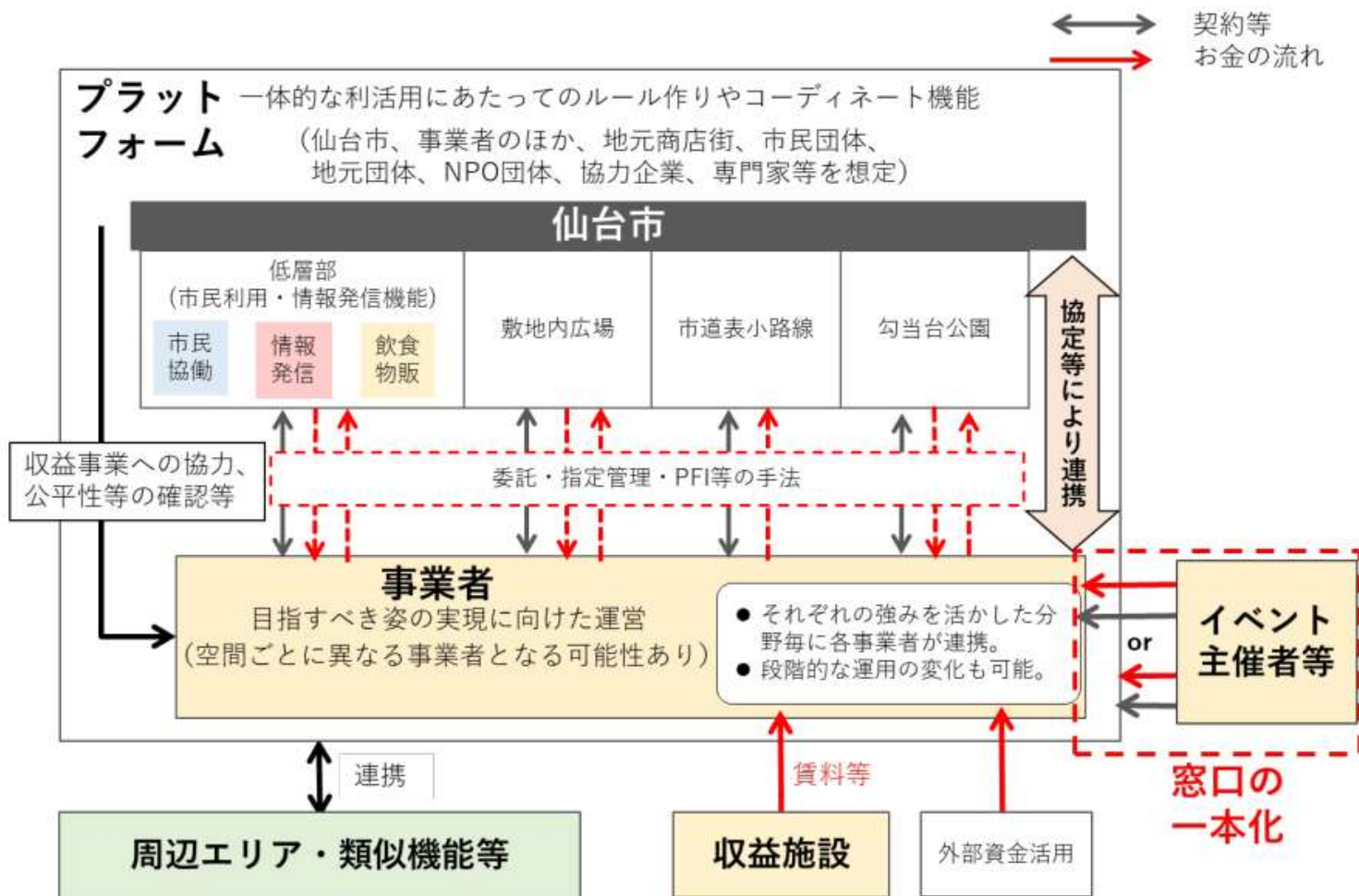
#### 連携するエリア

賑わい波及等の観点から、一番町商店街、定禅寺通、つなぎ横丁等の周辺エリアは、連携すべきエリアとして検討を進めていく。



- ・ 一体的利活用等に向けた地域団体等の多様な主体が参画できるプラットフォームの必要性、また、事業者とプラットフォームの定義づけの整理や事業者が実施する運営・維持管理のイメージ等について説明。
- ・ 事業者とエリア利活用のルールづくりを行うプラットフォームの関係性について、仙台市が事業者と何らかの手法で契約して運営や維持管理を行う一方、プラットフォームにはルールづくりやコーディネート機能を担うための体制が想定されることを説明。

## <事業手法（案）の想定>



## ■官民連携による庁舎のワークスペース改善事例

出所：各市・民間事業者等ホームページ

整備事例		ワークスペース等の特徴	ワークエリア 工夫	DX	市民利用空間 (コワーキング等)
1	香川県 三豊市	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間コミュニケーションの改善施策として、横連携がしやすい大部屋方式のフリーアドレス運用</li> <li>ペーパーレス化の推進によって業務効率向上を図るとともに、収納スペースの削減によって集中スペースや打合せスペースを新たに設置</li> </ul>	○		
2	千葉県 市川市	<ul style="list-style-type: none"> <li>新庁舎建設とDX推進により、来庁者の快適性を向上</li> <li>ワンストップサービスのための相談スペース設置</li> <li>庁舎全体でのフリーアドレスの導入と、インフォーマルな交流を生み出す打ち合わせスペース</li> </ul>	○	○	
3	三重県 いなべ市	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓からは、様々な樹種が植えられた「にぎわいの森」を眺められる、屋外空間のランドスケープを意識した設計</li> <li>待合エリアは通路幅を広く確保し、ユニバーサルプランを実現</li> </ul>	○		
4	広島県 廿日市市	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の連携を目的にフリーアドレスを導入</li> <li>壁際の集中スペースや「立ち会議」による時間短縮など</li> </ul>	○		
5	長崎県 長崎県庁	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なワークスタイルを選択できる、10のワークエリア</li> <li>ワークプレイス計画では「つながる場（BA）」というコンセプトの共有・浸透を図るため、職員を巻き込んだ検討を数多く実施</li> </ul>	○		
6	群馬県 群馬県庁	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部利用可能なコワーキング空間を創出</li> <li>ユーザーが気軽に交流できるような空間デザイン</li> </ul>			○

## 1. 三豊市役所 本庁舎 2階執務室（香川県三豊市）

- ・業務効率向上のため組織運営体制の改革とデジタル技術の導入促進を目的としたオフィス改革プロジェクトを実施。
- ・職員間のコミュニケーション改善のため、横連携がしやすい、大部屋方式のフリーアドレス制を採用。
- ・ペーパーレス化により、部署間の収納庫を取り除き、オープンな執務エリアにするとともに、新たに集中スペースや打合せスペースも設けている。

### 職員間コミュニケーションの改善施策として、横連携がしやすい大部屋方式のフリーアドレス運用



執務エリア

書類削減により部署間の収納庫を取り除き、オープンな執務エリアを実現。キャスター付きデスクを採用し、フリーアドレス形式で運用。

### ペーパーレス化の推進によって業務効率向上を図るとともに、収納スペースの削減によって集中スペースや打合せスペースを新たに設置。



多目的エリア

ノートPCやWi-Fiの導入などICTツールの整備を同時に行ったことで、業務内容に合わせて場所を選んで働くABW（Activity Based Workstyle）のワークスタイルを実現



集中・会議スペース

開設年	令和2年10月
規模	延床面積：1053.0m <sup>2</sup> (本庁舎 2階執務室のみ)
構造	—
用途	市役所庁舎
建設費	—
リンク	<a href="https://www.kokuyo-furniture.co.jp/madoguchi/list/mitoyo2f.html">https://www.kokuyo-furniture.co.jp/madoguchi/list/mitoyo2f.html</a>

## 2. 市川市役所（千葉県市川市）

- ・新庁舎建設と併せてDXを推進することにより、来庁者の快適性を向上することを主眼に設計。
- ・窓口業務を「かたまり」としてワンストップで対応できるように、庁内LANとワンストップスペースを整備。また、交流が生まれる場所など、市民が待ち時間を有効活用できるようなスペースも設けた。
- ・今後のICT化等により市役所に行かなくても手続きができ、将来において来庁が不要となることを見据え、手続きスペースが縮小し、市民のためのスペースが拡大する未来の姿も想定している。

開設年	令和2年7月
規模	敷地面積：7,600㎡ 建築面積：5,680㎡ 延床面積：30,375㎡ 階数：地下1階、地上7階、塔屋1階
構造	鉄骨造＋一部鉄筋コンクリート造
用途	市役所庁舎、市議会議場、食堂、駐車場
建設費	総額約207億円 【財源内訳】 補助金40百万円、地方債12,400百万円、千葉県市町村振興資金貸付金1,500百万円、一般財源4,000百万円、庁舎整備基金2,700百万円
リンク	<a href="http://workplace.okamura.co.jp/works/case/20210224/000322523.pdf">http://workplace.okamura.co.jp/works/case/20210224/000322523.pdf</a> (ichikawa.lg.jp)

### 新庁舎建設とDX推進により、来庁者の快適性を向上

- 1 証明書の発行 ⇒**証明書発行のスピードアップ**
- 2 ワンストップでのサービスが可能なもの ⇒**ワンストップエリア**
  - ・簡易な申請などで、即日 to 完結するもの等
- 3 ワンストップでのサービスが不可なもの ⇒**相談エリア**
  - ・手続などの前に相談や説明が必要で時間がかかる業務等

### ワンストップサービスのための相談スペース



市民に寄り添える「相談スペース」

■ 庁内LANの無線化により、職員が市民の元へ



窓口業務を「かたまり」としてワンストップで対応

- システムを集約して業務を一元化
- 業務改善によるスピードアップ  
(例：証明書発行時間の短縮)

### 庁舎全体でのフリーアドレスの導入と、インフォーマルな交流を生み出す打ち合わせスペース



執務スペース  
フリーアドレスに



打ち合わせスペース  
執務室の中央に設け、インフォーマルな交流の場に

### 3. いなべ市役所（三重県 いなべ市）

- ・ 行政施設の集約化と商業施設との近接により、“まちづくりの拠点”となることを目指し、「行政棟」「議会棟」「保健センター棟」「シビックコア棟」の4棟を新築。
- ・ 職員間のコミュニケーション改善とペーパーレス化による業務生産性向上の実現に向け、本庁舎2階フロアを改修。
- ・ 敷地内にある「にぎわいの森」の豊かな緑を眺められる、ランドスケープを活かした設計。

窓からは、様々な樹種が植えられた「にぎわいの森」を眺められる、屋外空間のランドスケープを意識した設計



行政棟 1階待合エリア

市民・職員ともに利用可能なセミクロウズな打ち合わせスペース



シビックコア棟 1階食堂

職員・市民に利用可能な食堂で、多目的利用が可能

待合エリアは通路幅を広く確保し、ユニバーサルプランを実現



行政棟 1階窓口・待合エリア

地産材を活用した建物内装との調和も意識し、自然豊かな「いなべ市らしさ」を家具のデザインや色調で表現

開設年	令和元年4月
規模	敷地面積：36,105.571㎡ 建築面積：8,268.11㎡(本体)+696.41㎡(にぎわいの森) 延床面積：14,590.93㎡(本体)+870.36㎡(にぎわいの森) 階数：地下1階、地上2階、塔屋1階(本体) 地上2階(にぎわいの森内テナント)
構造	鉄筋コンクリート造 +一部鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
用途	市役所庁舎(行政棟、議会棟、保健センター棟、シビックコア棟)、にぎわいの森、駐車場
建設費	総額約76億円
リンク	<a href="https://www.kokuyo-furniture.co.jp/madoguchi/list/inabe.html">https://www.kokuyo-furniture.co.jp/madoguchi/list/inabe.html</a>

## 4. 廿日市市大野支所（広島県 廿日市市）

- ・フリーアドレスを導入することで、職員の相互連携を促し、多岐にわたる支所業務を職員同士で補完する環境づくり。
- ・壁際の集中スペースや「立ち会議」による時間短縮など。
- ・市民交流と賑わいの創出するために、開放的なミーティングや会議室を配置したり、活動内容に合わせて変更できる家具を選定。

### 職員の連携を目的にフリーアドレスを導入



1階執務室

背中合わせで座ることで、交流が活発に

開設年	平成30年10月
規模	延床面積：2,266.38㎡ 階数：地上4階
構造	鉄筋コンクリート造 ＋一部鉄骨造
用途	市役所庁舎、駐車場（にぎわい施設が隣接）
建設費	総額約10億円
リンク	<a href="http://workplace.okamura.co.jp/works/case/090104/">http://workplace.okamura.co.jp/works/case/090104/</a>



壁際の集中スペース



個人ロッカーの活用



立ち会議による時間短縮、モニターによるペーパーレス化



市民が自由に活動できる場（荷物ロッカーや可変テーブルを配置）

## 5. 長崎県庁舎 行政棟・議会棟（長崎県）

- ・ワークプレイス計画では「つながる場（BA）」というコンセプトの共有・浸透を図るため、職員を巻き込んだ検討を数多く実施。
- ・様々な働き方やコミュニケーションが促されるように工夫された10のワークエリアを設計した。
- ・それらを職員自らが選択することで働き方改革につながっている。

### 多様なワークスタイルを選択できる、10のワークエリア



「つながるBA(場)」を実践するフロア



プロジェクト型—大人数でモニターを使いながら会議可能



フレキシブル型—気軽に集まり人数を限定せず打ち合わせ可能



スタンディング型—即座に集まりコミュニケーション



スクラム型—秘匿性の高い相談や集中的な議論ができる



マグネット型—複合機などを集約しコミュニケーションを誘発



集中作業ブース型—一定時間こもって集中

開設年	平成30年1月
規模	敷地面積：30,182㎡ 建築面積：10,588㎡(行政棟) 1,939㎡(議会棟) 延床面積：46,565㎡(行政棟) 6,699㎡(議会棟) 階数：地上8階(行政棟)、地上5階 一部塔屋あり(議会棟)
構造	鉄筋コンクリート造
用途	市役所庁舎、市議会議場、食堂、展望室、駐車場
建設費	総額約433億円 【財源内訳】 国庫補助金（国土交通省 2,600百万円、警察庁1,800百万円）、地方債1,400百万円、基金37,500百万円
リンク	<a href="https://cs.itoki.jp/case-studies/pref-nagasaki/">https://cs.itoki.jp/case-studies/pref-nagasaki/</a>

## 6. 群馬県庁32階官民共創スペース NETSUGEN（群馬県）

- ・県民や企業、研究機関が集まり官民共創で課題解決アイデアやイノベーションを創出・実行する場を県のDX推進課を中心に計画。
- ・有料コワーキングスペースの設置に限らず、参加者同士が交流できるようなイベントの実施や、専門コーディネーターとの相談機会を提供。
- ・群馬県らしさにつながる「森」「キャンプ」といった空間コンセプトで、場の価値向上を狙っている。

ユーザーが気軽に交流できるような空間デザイン  
—多目的スペースと、互いの顔が見えるよう角度をつけて配置されたソロワークスペース



【多目的スペース】創業・企業支援や地域課題解決のセミナー、人材育成ワークショップ等で使用



【コワーキングスペース】「森」「キャンプ」を意識した内装に調和できる家具

開設年	平成11年6月
規模	建築面積：3,227㎡ 延床面積：83,503㎡ 階数：地下3階、地上33階
構造	鉄骨造 + 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
用途	市役所庁舎、県民ホール、レストラン、展望台、駐車場
建設費	—
リンク	<a href="https://www.kokuyo-furniture.co.jp/madoguchi/list/gunma32f-netsugen.html#sc">https://www.kokuyo-furniture.co.jp/madoguchi/list/gunma32f-netsugen.html#sc</a>



【コワーキングスペース】写真中央のオープン席は、ソロワークや打合せに利用可能（有料）



【コワーキングスペース】ソファタイプのソロワークスペース



## ■防災機能を有する公園の事例集

出所：各市等ホームページ

NO.	整備事例	開園年	ポイント
1	末広中央公園 【宝塚市】	H16（2004年）	市役所等と一体となって防災拠点を形成する防災公園
2	南木の本防災公園 【八尾市】	H24（2012年）	高校跡地を活用した防災公園
3	岩倉公園 【茨木市】	H27（2015年）	大学キャンパスと一体となった防災公園
4	三鷹中央防災公園 【三鷹市】	H29（2017年）	老朽公共施設の機能更新と合わせて整備された防災公園
5	キセラ川西せせらぎ公園 【川西市】	H29（2017年）	PFI事業を活用して整備された防災機能を有する公園 市民が継続的に関わる仕組みを構築し、運営に関わる公園
6	としまみどりの防災公園 【豊島区】	R2（2020年）	日常利用や地域の賑わいを創出する防災公園
7	防災機能を有する公園 【八潮市】	—	平常時、発災時などを想定したゾーニング・動線計画を含む公園整備構想

# 1. 末広中央公園【宝塚市】:市役所等と一体となって防災拠点形成する防災公園

## 概要

- 周辺施設との連携による都市防災拠点機能の確保
- ・阪神淡路大震災を契機に防災公園街区整備事業がスタート。
- ・武庫川河川敷や市役所・消防本部等との連携を図ることで都市防災拠点機能を確保。
- ・防災公園部分は一時避難地であるとともに、広域避難地を補完する役割を持っている。

開園年 平成16年（2004年）4月開園

区域面積 約5ha（うち防災公園4.2ha）

都市計画 第二種住居地域（60/200）



左上：防災訓練の様子  
 右上：日常利用の様子  
 左下：音楽イベント実施時



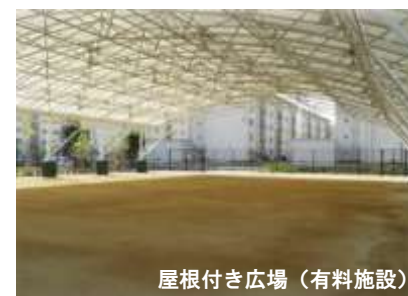
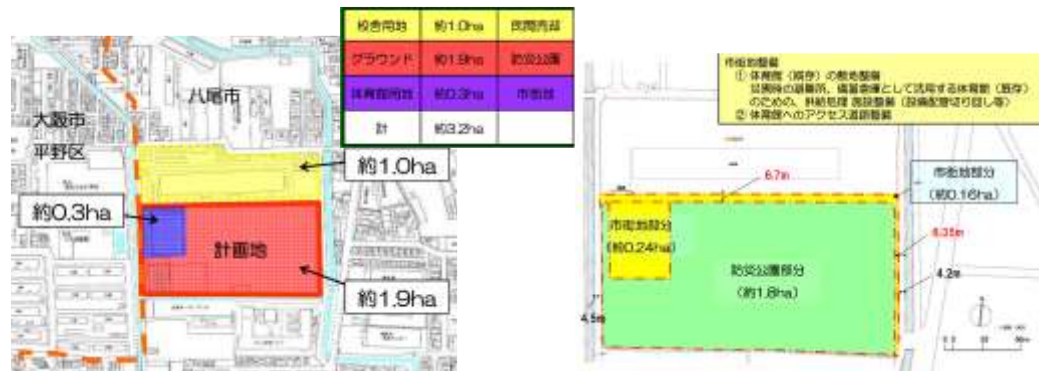
## 2. 南木の本防災公園【八尾市】: 高校跡地を活用した防災公園

概要	○高校跡地の活用
	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時避難地として機能する防災公園の整備、救援拠点の敷地整備（既存体育館の機能強化）及び緊急車両のアクセス性向上のための市道の新設・拡幅等を実施。</li> <li>防災公園の整備効果：一人当たり有効避難面積 <math>0\text{m}^2/\text{人} \rightarrow 3.88\text{m}^2/\text{人}</math></li> </ul>
開園年	平成24年（2012年）開園
区域面積	約2.2ha（うち防災公園1.8ha）
都市計画	第一種住居地域（60/200）

H20（2008）1月	事業要請（市→UR）
H20（2008）3月	基本協定締結（市・UR）、土地取得 市議会議決（公園直接施行。公園設置区域公告、債務負担）
H20（2008）11月	公園都市計画決定
H20（2008）年度	公園都市計画事業承認
H21（2009）年度	体育館敷地整備完了・引渡し
H22（2010）年度	道路部分整備完了・引き渡し
H24（2012）年度	公園開園・事業完了

### ○管理運営

- 「南木の本防災公園・体育館」は、市内体育施設9施設の1施設として、指定管理者による管理運営が行われている。
- 指定管理者：八尾体育振興会グループ（公益財団法人八尾体育振興会）
- 現行期間：平成31年4月～令和6年3月（5年間）



### 3. 岩倉公園【茨木市】:大学キャンパスと一体となった防災公園

#### 概要

- 工場跡地における大学キャンパスと一体となった防災公園
  - ・ サッポロビールの工場跡地に立命館大学が移転するのにあわせて、2015年3月に防災公園として整備された。
  - ・ 整備された区域（3ha）のうち、公園部分は、URから市が買い取り、市街地整備部分は市が大学に無償貸与。
- 市・大学の連携による活用
  - ・ 2012年に大学と市、商工会議所による連携協力に関する協定を締結。まちづくりや産業、学術研究など幅広く連携を行っている。
  - ・ 公園整備についてもUR、市、大学で共同で検討したほか、市と大学の共催イベントの実施など一体的な活用を展開。
  - ・ 大学校舎（フューチャープラザ）の1階に入居するテナント（カフェやレストラン）は公園に面して配置されている。

開園年 平成27年（2015年）3月供用開始

区域面積 約3.0ha（うち防災公園1.5ha）

都市計画 準工業地域（60/200）



市と大学の共催イベント



大学と公園の境界部分



## 4. 三鷹中央防災公園【三鷹市】:老朽公共施設の機能更新と合わせて整備された防災公園

<b>概要</b>	<p>○防災拠点の整備と老朽公共施設の機能更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青果市場（一時避難場所に指定）の移転に伴い、その機能継続とともに、三鷹市役所や緊急輸送道路等の結節点に隣接する当該地の特性を活かして防災公園として整備。</li> <li>・地区周辺の老朽化した複数の公共施設の機能を維持しつつ、元気創造プラザと総合スポーツセンターに集約・再編。</li> </ul>
<b>開園年</b>	平成29年（2017年）2月開園
<b>区域面積</b>	約2.0ha（うち防災公園1.5ha）
<b>都市計画</b>	準工業地域（60/200）/ 第一種住居地域（60/200）

H23（2011）1月	都市計画決定（都市公園）
H23（2011）3月	市場敷地の土地取得
H25（2013）2月	都市計画事業承認
H25（2013）10月	三鷹中央防災公園、元気創造プラザ整備工事着手
H29（2017）2月	事業完了



計画断面図



※ 現時点におけるイメージであり、今後の検討により変更される場合があります。

## 5. キセラ川西せせらぎ公園【川西市】:PFI事業を活用して整備された防災機能を有する公園

<p><b>概要</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区画整理事業で基盤整備がなされ、PFI事業により、公園・遊歩道整備等が行われた。</li> <li>公園には、かまどベンチやマンホールトイレ等の防災機能が設置されており、災害時には4,500人が避難できる。</li> <li>なお、公園整備等にあたっては市民ワークショップ等を通じて機能や配置の検討が行われた。</li> <li>公園の利活用の企画検討や利用者の交流などを目的とした「キセラ・カフェ」が開催され、公園に関係するコミュニティの場として開催されている。</li> </ul>
<p><b>開園年</b></p>	<p>平成29年（2017年）7月供用開始</p>
<p><b>区域面積</b></p>	<p>約2.6ha（うち0.6ha：せせらぎ遊歩道）</p>
<p><b>都市計画</b></p>	<p>第二種住居地域（60/300）</p>



## 6. としまみどりの防災公園(IKE・SUNPARK)(豊島区): 日常利用や地域の賑わいを創出する防災公園

### 概要

- ・造幣局跡地 (3.2ha) の1.7haを防災公園として整備。(残りは大学とキッズパークを整備)
- ・カフェやキャビン型店舗 (KOTO-PORT) が設置、毎週末に豊島区や交流都市の名産品を扱う「ファーマーズマーケット」が開催。
- ・一角にはコミュニティガーデン (市民農園) も設置されている。
- ・指定管理者 (日比谷アメニス・NTT都市開発ビルサービス) による管理運営が行われている。
- ・公園管理や利用促進等に関わる市民ボランティア (イケサン倶楽部) が活動している。

開園年 令和2年 (2020年)

区域面積 約1.7ha

都市計画 第一種住居地域 (60/400)



全景



KOTO-PORT



園内のカフェ



ボランティアグループ



コミュニティガーデン

## 7. 防災機能を有する公園【八潮市】: 平常時、発災時などを想定したゾーニング・動線計画を含む公園整備構想

<b>概要</b>	<p>○防災拠点の早急な整備に向けた基本構想の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模震災や台風、異常気象に伴う大雨などによる自然災害に向けた防災拠点としての公園整備に向け、「防災拠点となる公園の整備に関する基本方針」(以下、「基本方針」)に基づき、防災機能を有する公園整備基本構想を策定。</li> </ul>
<b>区域面積</b>	約6.5ha
<b>都市計画</b>	市街化調整区域

H26 (2014) 12月	「基本方針」決定
H28 (2016) 3月	総合計画に位置づけ
H28 (2016) 4月	緑の基本計画に位置づけ
H29 (2017) 2月	地元町会との意見交換会、隣接自治会への説明実施
H30 (2018) 3月	地権者への意向調査実施



○課題整理

- ・隣接施設（民間、学校、病院）との関係、アクセス性、緊急時における障害（鉄塔・送電線など）を整理

**平常時**  
体験農園やBBQ広場などのレクリエーション広場ゾーン、民活施設導入などのシンボル広場ゾーンなどを配置

**発災期（3時間～3日程度）**  
避難広場ゾーン、救援活動対応ゾーンなど発災期に必要な空間を想定。

**展開期（3日～2週間程度）**  
救援活動対応ゾーン、ボランティア受入ゾーンなど展開期に必要な空間配置を想定。